

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	考古学						授業形態	講義	
科目コード	750011	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長津 宗重								
授業概要	<p>本授業の目的は、遺跡・遺構・遺物などの考古資料から過去の人間活動とその舞台となった環境に関する情報を抽出・収集することによって歴史を再構築する考古学の研究の方法等を学ぶことです。宮崎県内の最新の発掘調査で確認された考古資料から日本・東アジアの視点で「人間と環境」、「生産と流通」、「集落と祭祀」、「文化と地域性」、「変化と画期」、「交流」などをキーワードとして旧石器・縄文・弥生・古墳時代を中心に古代・中世・近世を含めて日頃の歴史を読み解いていきます。その際には土器・石器などの考古資料に実際に触れながら授業を行います。</p>								
関連する科目	都城の歴史と文化、人間と自然の共生を同時期に受講しておくことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	毎回の授業においては当日に配布した資料やパワーポイントを利用して授業を展開します。また土器・石器などの考古資料に実際に触れ、その時代や機能について各自で考えグループで討論します。								
授業計画 【第1回】	考古学とは何か 歴史学の一つである考古学の目的と型式学的研究・層位学的研究・年代論的研究・理化学的年代測定法などの調査研究方法について学ぶ。								
授業計画 【第2回】	遺物から見る旧石器時代 局部磨製石斧・剥片尖頭器・細石刃などの旧石器から旧石器人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	遺構から見る旧石器時代 石器ブロック・礫群などの遺構から旧石器人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第4回】	遺物から見る縄文時代 縄文土器・石器・玉・土偶などの遺物から縄文人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第5回】	遺構から見る縄文時代 集石遺構・炉穴・竪穴建物跡などの遺構から縄文人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	交流から見る縄文時代 縄文土器の文様・黒曜石・ヒスイ性装飾品などの遺物から縄文人の交流を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第7回】	遺物から見る弥生時代 弥生土器・大陸系磨製石器などの遺物から弥生人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第8回】	遺構から見る弥生時代 竪穴建物跡・掘立柱建物跡・周溝墓・水田跡などの遺構から弥生人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	交流から見る弥生時代 瀬戸内系土器に代表される搬入土器・鏡片などの遺物や、円形周溝墓などの遺構から弥生人の交流を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	遺物から見る古墳時代 土師器・須恵器・埴輪・玉などの遺物から古墳人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								
授業計画 【第11回】	遺構から見る古墳時代 竪穴建物跡・掘立柱建物跡・前方後円墳・地下式横穴墓などの遺構から古墳人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	交流から見る古墳時代 鏡・甲冑・貝輪・須恵器などの遺物から古墳人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。
授業計画 【第13回】	遺構・遺物から見る古代（奈良・平安時代） 竪穴建物跡・掘立柱建物跡などの遺構、土師器・須恵器・瓦などの遺物から奈良・平安時代人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。
授業計画 【第14回】	遺構・遺物から見る中世・近世 山城跡・石塔群・掘立柱建物跡などの遺構、土師器・陶磁器・銅銭などの遺物から中世・近世人の活動を復元し、その歴史について学ぶ。
授業計画 【第15回】	現代と考古学 現代における開発に伴う発掘調査が多くを占める中での遺跡の保護・活用及び考古学の役割について学ぶ。
授業の到達目標	土器・石器などの考古資料に触れることなどを通じて歴史における普遍性や地域性・多様性を知り、理解することにより、歴史への自己認識が深まることを目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	なし
授業時間外の学修 【復習】	授業毎に配布した資料・パンフレットを読んで授業内容を確認しておくこと。（約30分）
課題に対する フィードバック	定期試験は試験後に解説をする。
評価方法・基準	以下の項目について基づいて評価します。 1) 定期試験（100点）
テキスト	授業毎に配布した資料及びパンフレット
参考書	考古学キーワード 改訂版 安森政雄編 有斐閣双書 宮崎県史 通史編 原始・古代1 宮崎県編集 ぎょうせい 宮崎県の歴史 坂上康俊ほか 山川出版
備考	1982年から宮崎県教育庁文化課埋蔵文化財係で宮崎学園都市建設に伴う発掘調査で縄文時代・弥生時代・中世の3遺跡の調査、国道建設・圃場整備などの開発に伴って県内各地の縄文時代～古墳時代の13遺跡の調査、西都原古墳群の発掘調査、2000年から宮崎県埋蔵文化財センター調査第一課で東九州自動車道（大分県境～西都間）建設に伴う旧石器時代～近世の85遺跡の発掘調査指導を行った。県内各地の旧石器時代～近世の調査を担当した経験から出土した遺物などの考古資料を持参して遺跡で各時代の普遍性や違いを具体的に教授することができる。